

新年度予算決定



伊豆の国市長 望月 良和

住んで良かった、住み続けたいと 実感できるまちづくり

市政運営に取り組む所信の一端を申し上げます
もに、平成二十二年当初予算について報告します。
(平成二十二年三月市議会定例会・市長施政方針より)

平成二十二年予算は、景気低迷などによる市税の減収が予測されることに加え、生活保護費をはじめとする扶助費が増加するなど、厳しい財政環境の中での編成となりました。第一次伊豆の国市総合計画に掲げる将来像の実現を念頭に置き、直面する課題や重点施策に対し、限られた財源を効果的に配分した予算としていきます。安全・安心のまちづくりに努めながら、子育て支援、教育環境の整備、治水対策などの重点施策を積極的に推進し、誰もが住んで良かった、住み続けたいと実感できる、魅力あるまちづくりに取り組んでいきます。

総合計画三つの戦略

一つ目の戦略「伊豆半島交流軸の構築」
伊豆半島の交流の要衝として、広域的役割を果たす機能や情報発信の機能が充実したまちづくりを目指していきます。光ファイバー網の整備については、市民生活の利便性の向上や産業振興など、市の発展には必要なインフラ整備だと考え、投資の効果や補助金制度など、整備に向けての調査をしていきます。
また、道路交通網の整備については、伊豆中央道の

料金の無料化と江間地区の伊豆中央道のフルインター化の早期実現を目指していきます。

二つ目の戦略「狩野川流域生活圏の一体化」
歴史的背景に築かれた文化や個性を生かし、狩野川を中心に一体的なまちづくりを目指していきます。歴史的資産の全国発信については、江川垣庵公をメインテーマとして開催した国民文化祭に続き、新年度は、「垣庵合唱祭」を開催し、垣庵公の名をさらに広めるとともに、国指定史跡葎山反射炉を全国に発信し、歴史的資産を活かして、観光、農業、商工をはじめとする地域経済の発展を図っていきます。

三つ目の戦略「安全、安心、健康のまちづくり」
家庭や宿泊施設から食品残渣を回収し、これを堆肥化することにより、農業・経済・資源を複合的に組み込んだ循環型社会を目指していきます。
堆肥化施設は、八月の完成を目指し、施設完成後は、食品残渣や畜糞などから、安全な堆肥を製造していきます。これを契機に、一般廃棄物を燃やさないで処理する資源の還元を進め、安全・安心・健康のまちづくりを推進していきます。

三つ目の柱

未来を担う人を育み、豊かな歴史・文化を築くまち

重点的に取り組んでいる教育施設の耐震化対策では、長岡幼稚園と田京幼稚園の園舎の建設を行い、新校舎が完成した大仁中学校では、第一グラウンドの整備と旧校舎解体工事を行っています。
学校教育では、国際的なコミュニケーション能力の向上を図るため、外国人の英語指導助手を中学校に配置するとともに、小学校にも派遣し、連続した英語教育を展開していきます。
放課後児童教室や地域子育て支援センターなどの子育て支援の九施設に、防犯カメラや録画装置などを設置し、安心して利用できる環境づくりに努めます。
文化財保護では、近代化産業遺産として認定を受け、反射炉として世界唯一現存する、史跡葎山反射炉の保護に向け、経年劣化調査を実施し、修理計画を策定していきます。

文化事業では、国民文化祭の継続イベントとして、「垣庵合唱祭」を開催し、交流人口の増加と宿泊につながるイベントになるよう取り組んでいきます。
また、生涯学習講座を六十五講座開設する予定です。



四つ目の柱

だれもがすこやか、元気に生きるまち

自己負担なしのこども医療費助成は、昨年十月から対象を小学校六年生まで引き上げ、子育てに取り組む家庭の経済的負担の軽減を図っています。仕事と育児の両立を支援するファミリーサポートセンターは、四

月から運営を開始します。

不妊治療助成は、申請者が増えていることから、予算額を増額し、少子化対策をさらに推進していきます。

予防接種事業では、七十五歳以上の人の肺炎球菌ワクチン接種費用について、二分の一を市が負担します。

妊婦・乳幼児健診では、啓発活動や個人通知の充実、成人ガン検診では、集団検診を実施するなど、市民が受診しやすい体制を整え、受診率の向上に努めます。

また、高齢者や障害を持つ人が、積極的に外出できるように、タクシー等利用助成を継続して実施します。

「めおと湯の館」を活用した、葎山地区への高齢者福祉施設の整備に向けて、調査を行います。敬老会については、市主催の敬老会は廃止し、各地区主催のものへ移行していきます、運営費の補助を行います。
第二期福祉村については、障害者計画により、障害者が安心して暮らすための三つの施設を継続的に整備していきます。新年度は、社会福祉法人が建設する就労訓練施設に対し、補助を行います。

五つ目の柱

住みたい、訪れたい、「にぎわいのあるまち

治水対策として、洞川や山田川の流域浸水対策事業や長岡川都市下水道整備事業、小坂地区の都市下水道整備事業などに取り組みます。

道路整備では、継続事業で合併特例債を活用した大101号線をはじめ、十四路線の改良工事を行い、安全性の確保と市民の利便性の向上に努めます。

水道事業では、安全でおいしい水の安定供給を図るため、新長瀬配水池送水管新設・布設替工事や鳴沢配水池耐震補強工事など、水道施設の整備・更新を進

総合計画六つの基本方針

一つ目の柱

美しい自然に恵まれた、快適な空間のまち

環境負荷の少ない循環型社会の構築に向け、エコアクション21を推進していきます。伊豆長岡庁舎では、太陽光発電装置の設置と省エネ照明設備への取替工事を行い、長岡幼稚園と田京幼稚園には、太陽光発電装置を設置するほか、住宅用省エネルギー機器の設置者に対する補助制度を創設するなど、省エネ対策に取り組みます。広域廃棄物処理施設整備については、処理施設の設置場所が早期に決定できるよう、引き続き調整していきます。

そのほか、不法投棄対策事業や市の花あやめの普及事業、公園施設の充実、放牧竹林の整備などを推進します。



二つ目の柱

生き生き動く、活気に満ちた産業のあるまち

地域観光推進事業では、宿泊者の増加と富士山静岡空港の利用を促すため、静岡空港と小松空港を結ぶ便を利用した伊豆長岡温泉の宿泊者に対し補助を行う、誘客キャンペーンを支援していきます。観光誘客プロモーション事業では、観光関係者によるワークショップで顧客本位の旅行プランができたことを踏まえ、引き続き観光関係者による当市ならではのプロモーションを支援していきます。安全・安心・健康のまちづくり事業では、有機栽培アドバイザーを委託し、有機堆肥を活用した安全で安心な野菜づくりを推進するとともに、栽培された高機能野菜を使った特産品の開発を行います。

また、農業振興では、後継者の育成や、用排水路・湛水防除施設などの基盤整備を図り、緊急雇用対策では、九事業での新たな雇用機会の創出に取り組めます。

めていきます。下水道事業では、長寿命化計画の策定や江間汚水幹線整備など、計画的に事業を推進していきます。

防災対策では、五力年の継続事業である防災行政無線デジタル化整備事業は最終年度となり、大仁地区の整備をもって完了となります。今後は、迅速な情報提供など、デジタル化の特性を活かした多機能運用を進めます。

また、女性消防隊を編制し、市民への防火予防や災害時の応急手当て、家庭用火災報知機の普及活動を行うていきます。市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、防犯ボランティア団体や各自治会などと協力し、青色防犯パトロールの強化を図ります。



六つ目の柱

みんなが主役、明日に向かって進むまち

市民と行政の協働を図っていくには、行政からの情報の提供と、市民の行政ニーズを的確に把握する環境づくりが重要となってきます。市政運営やまちづくりに関する情報を共有するため、広報やホームページなどを通じて、的確な情報を発信し、開かれた行政を推進していきます。また、各地区での市政懇談会や市長への「まちづくり」意見箱など、市民がより市政に参画しやすい環境づくりに努め、寄せられた提言や意見をまちづくりに活かします。

新たに策定する第二次財政改革大綱と集中改革プランの着実な推進を図り、限られた財源の中で、効果的・効率的な行政運営に取り組んでいきます。

